



梅 田 安 治

## みち・さまさま

の道路先進国なのでもある。

干拓地の農家の庭先は道路からの景観を保全するように義務づけられていることもあり、見事に整備されている。

明治十五年から、農学などの指導のために来日していたマックス・フェスカは、日本の農村を見て歩いて「殊に日本の道

路は概して軽便なる手車の通行多きため、彼の四頭馬を以て挽かしむる大馬車の通行するフランス・ドイツ二国よりも一層善良

ならざるべからず」八日本農業及北海道殖民論・一八八七と云っている。現代にも生きていてはしい名言である。エンジンのついでに自動

車は少々の道でも走れるのだから…

オランダの干拓地の農家で見た耕作道は、トラクターの轍の部分だけコンクリートブロックを並べてあった。見事な舗装道路と言うべきである。干拓地の堤防をつくるときの捨石も北欧から輸入して来て繰り返し使っているほどであるから、石材などはかなりの貴重品なのである。その一面、十七世紀にオランダを旅行したイギリス人が、道路の石畳がすすんでいるため雨の後も足を汚さずに歩けると感心した記録があるほど

一方で、道路の路肩、法面などの草は家畜の飼料として、付近の農家はその刈取り権の競争入札をして、資源として有効に使っている。また、道路自体も麦の収穫期には麦稈の集積所として使用して、自動車が行き止まりになっても廻り道があると平気でいるのである。

市街地の歩道に砂場のようなものがあるのに近づいてみると、砂まみれのバナナみたいなのがごろごろしている。犬の御用足し場なのである。公園の人間のトイレでは、後始末用の水を手押しポンプで各人に洗わせるように工夫した人々は、犬の分までも考えているのである。

道路を道路交通法適用の場としてではなく、生活の場の一部として将棋をさす涼み台ぐらゐ置けるようにしたいものである。

(北大助教授・農業工学)



オランダ干拓地の道路